

2020 入試対策  
2次数学アーカイブ

# ベクトル

## 文系+理系

1998 - 2019

---

外林康治 編著

電送数学舎

---

# ベクトル

## 【問題一覧】

---

(注) 問題番号が、対応する解答例へのハイパーリンクになっています。

1  $\triangle ABC$  の 3 辺  $BC, CA, AB$  を  $t:1-t$  の比に内分する点をそれぞれ  $A_1, B_1, C_1$  とおき,  $\triangle A_1B_1C_1$  の 3 辺  $B_1C_1, C_1A_1, A_1B_1$  を  $t:1-t$  の比に内分する点をそれぞれ  $A_2, B_2, C_2$  とおく。ただし,  $0 < t < 1$  とする。

- (1)  $\triangle A_2B_2C_2$  の辺  $B_2C_2$  が  $\triangle ABC$  のいずれかの辺と平行となる  $t$  の値を求めよ。  
 (2) (1) のとき,  $\triangle A_2B_2C_2$  は  $\triangle ABC$  に相似であることを示し, その相似比を求めよ。

[1998 一橋大]

2 空間に, 同一直線上にない 3 点  $O, A, B$  と 1 点  $P$  がある。  $O, A, B$  を通る平面を  $\alpha$  とし, 点  $P$  は  $\alpha$  上にないとする。  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}, \overrightarrow{OP} = \vec{p}$  とおき,  $|\vec{a}| = \sqrt{2}, |\vec{b}| = \sqrt{2}, \vec{a} \cdot \vec{b} = -1, \vec{p} \cdot \vec{a} = 2, \vec{p} \cdot \vec{b} = -2$  とする。

- (1)  $\vec{p} - s\vec{a} - t\vec{b}$  が平面  $\alpha$  に垂直になるように実数  $s, t$  を定めよ。  
 (2) 平面  $\alpha$  に関して点  $P$  と対称な点を  $Q$  とするとき, ベクトル  $\overrightarrow{OQ}$  を  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}$  を用いて表せ。  
 (3) 三角形  $OPQ$  の面積が  $\frac{2\sqrt{2}}{3}$  のとき,  $\vec{p}$  の大きさ  $|\vec{p}|$  を求めよ。 [1998 千葉大・文]

3 空間の点  $(10, 0, 0)$  を中心とする半径 9 の球面を  $S_1$  とし, 点  $(0, 10, 0)$  を中心とする半径 8 の球面を  $S_2$  とする。  $S_1$  と  $S_2$  に接し原点を通る直線の長さ 1 の方向ベクトル  $(a, b, c)$  ( $c \geq 0$ ) をすべて求めよ。 [1999 東北大・理]

4 点  $O$  を中心とする円を考える。この円の円周上に 3 点  $A, B, C$  があって,

$$\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OC} = \vec{0}$$

を満たしている。このとき, 三角形  $ABC$  は正三角形であることを証明せよ。

[2000 大阪大・文]

5 円に内接する四角形  $ABPC$  は次の条件(イ), (ロ)を満たすとする。

- (イ) 三角形  $ABC$  は正三角形である。  
 (ロ)  $AP$  と  $BC$  の交点は線分  $BC$  を  $p:1-p$  ( $0 < p < 1$ ) の比に内分する。

このときベクトル  $\overrightarrow{AP}$  を  $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}, p$  を用いて表せ。

[2000 京都大]

6 三角形 ABC において  $\overrightarrow{CA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{CB} = \vec{b}$  とする。次の問いに答えよ。

(1) 実数  $s, t$  が  $0 \leq s+t \leq 1$ ,  $s \geq 0, t \geq 0$  の範囲を動くとき、次の各条件を満たす点 P の存在する範囲をそれぞれ図示せよ。

(a)  $\overrightarrow{CP} = s\vec{a} + t(\vec{a} + \vec{b})$

(b)  $\overrightarrow{CP} = (2s+t)\vec{a} + (s-t)\vec{b}$

(2) (1)の各場合に、点 P の存在する範囲の面積は三角形 ABC の面積の何倍か。

[2000 神戸大・文]

7 四面体 OABC において、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ ,  $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$  とおく。線分 OA, OB, OC, BC, CA, AB の中点をそれぞれ L, M, N, P, Q, R とし、 $\vec{p} = \overrightarrow{LP}$ ,  $\vec{q} = \overrightarrow{MQ}$ ,  $\vec{r} = \overrightarrow{NR}$  とおく。

(1) 線分 LP, MQ, NR は 1 点で交わることを示せ。

(2)  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を  $\vec{p}$ ,  $\vec{q}$ ,  $\vec{r}$  を用いて表せ。

(3) 直線 LP, MQ, NR が互いに直交するとする。X を  $\overrightarrow{AX} = \overrightarrow{LP}$  となる空間の点とするとき、四面体 XABC の体積を  $|\vec{p}|$ ,  $|\vec{q}|$ ,  $|\vec{r}|$  を用いて表せ。 [2001 東北大・文]

8 四角形 ABCD は半径 1 の円に内接し、

$$\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BD} = 0, \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD} + 2(\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD}) = \vec{0}$$

を満たしている。このとき次の問いに答えよ。

(1) 直線 AC は線分 BD の中点を通ることを示せ。

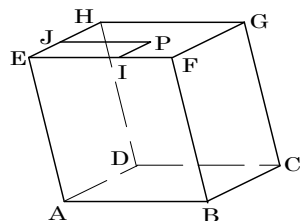
(2) 四角形 ABCD の 4 辺の各辺の長さを求めよ。

[2002 千葉大・理]

9 空間内の図形について次の問いに答えよ。

(1)  $\triangle ABC$  の面積は、 $\frac{1}{2}\sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2|\overrightarrow{AC}|^2 - (\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC})^2}$  に等しいことを示せ。ここで、 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$  はベクトル  $\overrightarrow{AB}$  とベクトル  $\overrightarrow{AC}$  との内積を表す。必要ならば、2つのベクトルのなす角のコサインと内積の関係式を用いてよい。

(2)  $a$  を正の定数とし、右図の平行六面体  $ABCD-EFGH$  を考える。 $|\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{AD}| = 1$ 、 $|\overrightarrow{AE}| = 2a$  とし、 $\angle FBC = \angle BCD = 90^\circ$ 、 $\angle EAB = 120^\circ$  とする。面  $EFGH$  上に点  $P$  をとり、点  $P$  から辺  $EF$  上に垂線  $PI$  を下ろし、点  $P$  から辺  $EH$  上に垂線  $PJ$  を下ろす。 $x = |\overrightarrow{EI}|$ 、 $y = |\overrightarrow{EJ}|$  とするとき、 $\triangle ACP$  の面積を  $a, x, y$  を用いて表せ。



(平行六面体  $ABCD-EFGH$ )

(3) 問(2)で点  $P$  が面  $EFGH$  上を動くとき、 $\triangle ACP$  の面積の最小値を求めよ。

[2002 九州大・文]

10 四面体  $OABC$  は次の2つの条件

(i)  $OA \perp BC$ ,  $OB \perp AC$ ,  $OC \perp AB$

(ii) 4つの面の面積がすべて等しい

を満たしている。このとき、この四面体は正四面体であることを示せ。 [2003 京都大]

11 座標空間内の三角柱

$$0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1, x \geq y, 0 \leq z \leq 1$$

を考え、その  $xy$  平面内の面を  $S$ 、 $xz$  平面内の面を  $T$  とする。点  $A(a, b, 0)$  を  $S$  内に、点  $B(c, 0, d)$  を  $T$  内にとり、また  $C(1, 1, 1)$  とする。ただし、点  $A, B$  は原点  $O$  とは異なるとする。

(1) ベクトル  $\overrightarrow{OA}$  および  $\overrightarrow{OC}$  に直交する単位ベクトルを求め、その単位ベクトルとベクトル  $\overrightarrow{OB}$  の内積の絶対値を求めよ。

(2) 四面体  $OABC$  の体積を求めよ。ただし、点  $O, A, B, C$  は同一平面上にないとする。

(3) 点  $A$  が  $S$  内を、点  $B$  が  $T$  内を動くとする。このときの、四面体  $OABC$  の体積の最大値、および最大値を与える点  $A, B$  の位置をすべて求めよ。 [2004 九州大・理]

**12** 空間内の4点A, B, C, Dが

$$AB=1, AC=2, AD=3, \angle BAC = \angle CAD = 60^\circ, \angle DAB = 90^\circ$$

を満たしている。この4点から等距離にある点をEとする。線分AEの長さを求めよ。

[2005 大阪大・理]

**13**  $\triangle ABC$  に対し、辺AB上に点Pを、辺BC上に点Qを、辺CA上に点Rを、頂点とは異なるようにとる。この3点がそれぞれの辺上を動くとき、この3点を頂点とする三角形の重心はどのような範囲を動くか図示せよ。

[2006 京都大・理]

**14** 大きさがそれぞれ5, 3, 1の平面上のベクトル $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ に対して、 $\vec{z} = \vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ とおく。

(1)  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を動かすとき、 $|\vec{z}|$ の最大値と最小値を求めよ。

(2)  $\vec{a}$ を固定し、 $\vec{a} \cdot \vec{z} = 20$ を満たすように $\vec{b}, \vec{c}$ を動かすとき、 $|\vec{z}|$ の最大値と最小値を求めよ。

[2006 一橋大]

**15**  $xy$ 平面において、原点Oを通る半径 $r$  ( $r > 0$ )の円をCとし、その中心をAとする。Oを除くC上の点Pに対し、次の2つの条件(a), (b)で定まる点Qを考える。

(a)  $\overrightarrow{OP}$ と $\overrightarrow{OQ}$ の向きが同じ

(b)  $|\overrightarrow{OP}| |\overrightarrow{OQ}| = 1$

以下の問いに答えよ。

(1) 点PがOを除くC上を動くとき、点Qは $\overrightarrow{OA}$ に直交する直線上を動くことを示せ。

(2) (1)の直線を $l$ とする。 $l$ がCと2点で交わる時、 $r$ のとりうる値の範囲を求めよ。

[2007 大阪大]

**16**  $a, b$ を正の数とし、空間内の3点 $A(a, -a, b)$ ,  $B(-a, a, b)$ ,  $C(a, a, -b)$ を考える。A, B, Cを通る平面を $\alpha$ 、原点Oを中心としA, B, Cを通る球面をSとおく。このとき、次の問いに答えよ。

(1) 線分ABの中点をDとすると、 $\overrightarrow{DC} \perp \overrightarrow{AB}$ および $\overrightarrow{DO} \perp \overrightarrow{AB}$ であることを示せ。

また $\triangle ABC$ の面積を求めよ。

(2) ベクトル $\overrightarrow{DC}$ と $\overrightarrow{DO}$ のなす角を $\theta$ とすると、 $\sin \theta$ を求めよ。また、平面 $\alpha$ に垂直で原点Oを通る直線と平面 $\alpha$ との交点をHとすると、線分OHの長さを求めよ。

(3) 点Pが球面S上を動くとき、四面体ABCPの体積の最大値を求めよ。ただし、Pは平面 $\alpha$ 上にはないものとする。

[2007 九州大・理]

**17** 点  $O$  で交わる 2 つの半直線  $OX, OY$  があって  $\angle XOY = 60^\circ$  とする。2 点  $A, B$  が  $OX$  上に  $O, A, B$  の順に、また、2 点  $C, D$  が  $OY$  上に  $O, C, D$  の順に並んでいるとして、線分  $AC$  の中点を  $M$ 、線分  $BD$  の中点を  $N$  とする。線分  $AB$  の長さを  $s$ 、線分  $CD$  の長さを  $t$  とするとき、以下の問いに答えよ。

- (1) 線分  $MN$  の長さを  $s$  と  $t$  を用いて表せ。
- (2) 点  $A, B$  と  $C, D$  が、 $s^2 + t^2 = 1$  を満たしながら動くとき、線分  $MN$  の長さの最大値を求めよ。 [2008 大阪大]

**18** 平面上の三角形  $OAB$  を考え、辺  $AB$  の中点を  $M$  とする。 $\vec{a} = \frac{\overrightarrow{OA}}{|\overrightarrow{OA}|}$ 、 $\vec{b} = \frac{\overrightarrow{OB}}{|\overrightarrow{OB}|}$  とおき、点  $P$  を  $\vec{a} \cdot \overrightarrow{OP} = -\vec{b} \cdot \overrightarrow{OP} > 0$  であるようにとる。直線  $OP$  に  $A$  から下ろした垂線と直線  $OP$  の交点を  $Q$  とする。

- (1)  $\overrightarrow{MQ}$  と  $\vec{b}$  は平行であることを示せ。
- (2)  $|\overrightarrow{MQ}| = \frac{1}{2}(|\overrightarrow{OA}| + |\overrightarrow{OB}|)$  であることを示せ。 [2009 大阪大・理]

**19** 座標平面上に点  $O(0, 0)$  と点  $P(4, 3)$  をとる。不等式  $(x-5)^2 + (y-10)^2 \leq 16$  の表す領域を  $D$  とする。次の問いに答えよ。

- (1)  $k$  は定数とする。直線  $y = -\frac{4}{3}x + k$  上の点を  $Q$  とするとき、ベクトル  $\overrightarrow{OQ}$  と  $\overrightarrow{OP}$  の内積  $\overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OP}$  を  $k$  を用いて表せ。
- (2) 点  $R$  が  $D$  全体を動くとき、ベクトル  $\overrightarrow{OP}$  と  $\overrightarrow{OR}$  の内積  $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OR}$  の最大値および最小値を求めよ。 [2010 広島大・文]

**20** 四面体  $ABCD$  において、辺  $AB$  の中点を  $M$ 、辺  $CD$  の中点を  $N$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 等式  $\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} = \overrightarrow{PC} + \overrightarrow{PD}$  を満たす点  $P$  は存在するか。証明をつけて答えよ。
- (2) 点  $Q$  が等式  $|\overrightarrow{QA} + \overrightarrow{QB}| = |\overrightarrow{QC} + \overrightarrow{QD}|$  を満たしながら動くとき、点  $Q$  が描く図形を求めよ。
- (3) 点  $R$  が等式  $|\overrightarrow{RA}|^2 + |\overrightarrow{RB}|^2 = |\overrightarrow{RC}|^2 + |\overrightarrow{RD}|^2$  を満たしながら動くとき、内積  $\overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{MR}$  は  $R$  のとり方によらず一定であることを示せ。
- (4) (2) の点  $Q$  が描く図形と (3) の点  $R$  が描く図形が一致するための必要十分条件は  $|\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{CD}|$  であることを示せ。 [2010 東北大]

**21** 三角形 ABC の外心を O, 重心を G, 内心を I とする。

(1)  $\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA}$  が成り立つならば, 三角形 ABC は直角三角形であることを証明せよ。

(2)  $k$  が  $k \neq \frac{1}{3}$  を満たす実数で,  $\overrightarrow{OG} = k\overrightarrow{OA}$  が成り立つならば, 三角形 ABC は二等辺三角形であることを証明せよ。

(3)  $\overrightarrow{OI} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$  が成り立つならば, 三角形 ABC は二等辺三角形であることを証明せよ。  
[2011 千葉大・理]

**22** 平面上のベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  が,  $|\vec{a}| = |\vec{b}| = 1$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = -\frac{1}{2}$  を満たすとする。ただし, 記号  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  は  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の内積を表す。以下の問いに答えよ。

(1) 実数  $p, q$  に対して,  $\vec{c} = p\vec{a} + q\vec{b}$  とおく。このとき, 次の条件  $|\vec{c}| = 1$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{c} = 0$ ,  $p > 0$  を満たす実数  $p, q$  を求めよ。

(2) 平面上のベクトル  $\vec{x}$  が,  $-1 \leq \vec{a} \cdot \vec{x} \leq 1$ ,  $1 \leq \vec{b} \cdot \vec{x} \leq 2$  を満たすとき,  $|\vec{x}|$  のとりうる値の範囲を求めよ。  
[2012 東北大・文]

**23**  $xyz$  空間内の平面  $z = 2$  上に点 P があり, 平面  $z = 1$  上に点 Q がある。直線 PQ と  $xy$  平面の交点を R とする。

(1) P(0, 0, 2) とする。点 Q が平面  $z = 1$  上で点 (0, 0, 1) を中心とする半径 1 の円周上を動くとき, 点 R の軌跡の方程式を求めよ。

(2) 平面  $z = 1$  上に, 4 点 A(1, 1, 1), B(1, -1, 1), C(-1, -1, 1), D(-1, 1, 1) をとる。点 P が平面  $z = 2$  で点 (0, 0, 2) を中心とする半径 1 の円周上を動き, 点 Q が正方形 ABCD 上を動くとき, 点 R が動きうる領域を  $xy$  平面上に図示し, その面積を求めよ。  
[2012 一橋大]

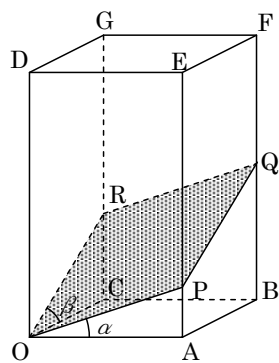
**24**  $t$  を正の定数とする。原点を O とする空間内に, 2 点 A(2t, 2t, 0), B(0, 0, t) がある。また動点 P は

$$\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{AP} + \overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{BP} + \overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{BP} = 3$$

を満たすように動く。OP の最大値が 3 となるような  $t$  の値を求めよ。 [2013 一橋大]



**25** 1 辺の長さが 1 の正方形を底面とする四角柱  $OABC - DEFG$  を考える。3 点  $P, Q, R$  を、それぞれ辺  $AE$ , 辺  $BF$ , 辺  $CG$  上に、4 点  $O, P, Q, R$  が同一平面上にあるようにとる。四角形  $OPQR$  の面積を  $S$  とおく。また、 $\angle AOP$  を  $\alpha$ ,  $\angle COR$  を  $\beta$  とおく。



- (1)  $S$  を  $\tan \alpha$  と  $\tan \beta$  を用いて表せ。
- (2)  $\alpha + \beta = \frac{\pi}{4}$ ,  $S = \frac{7}{6}$  であるとき、 $\tan \alpha + \tan \beta$  の値を求めよ。さらに、 $\alpha \leq \beta$  のとき、 $\tan \alpha$  の値を求めよ。

[2014 東京大・理]

**26** 平面において、一直線上にない 3 点  $O, A, B$  がある。 $O$  を通り直線  $OA$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $P$  をとる。 $O$  を通り直線  $OB$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $Q$  をとる。ベクトル  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$  は  $\overrightarrow{AB}$  に垂直であるとする。

- (1)  $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$  を示せ。
- (2) ベクトル  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$  のなす角を  $\alpha$  とする。ただし、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  とする。このときベクトル  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OQ}$  のなす角が  $\pi - \alpha$  であることを示せ。

- (3)  $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$  を示せ。

[2015 北海道大・文]

**27**  $xyz$  空間において、原点を中心とする  $xy$  平面上の半径 1 の円周上を点  $P$  が動き、点  $(0, 0, \sqrt{3})$  を中心とする  $xz$  平面上の半径 1 の円周上を点  $Q$  が動く。

- (1) 線分  $PQ$  の長さの最小値と、そのときの点  $P, Q$  の座標を求めよ。
- (2) 線分  $PQ$  の長さの最大値と、そのときの点  $P, Q$  の座標を求めよ。 [2015 一橋大]

**28**  $xyz$  空間の中で、 $(0, 0, 1)$  を中心とする半径 1 の球面  $S$  を考える。点  $Q$  が  $(0, 0, 2)$  以外の  $S$  上の点を動くとき、点  $Q$  と点  $P(1, 0, 2)$  の 2 点を通る直線  $l$  と平面  $z = 0$  との交点を  $R$  とおく。 $R$  の動く範囲を求め、図示せよ。 [2015 京都大・文]

**29**  $\triangle ABC$  が、 $AB = 2$ ,  $AC = 1 + \sqrt{3}$ ,  $\angle ACB = 45^\circ$  を満たすとする。

- (1)  $\beta = \angle ABC$  とおくとき、 $\sin \beta$  および  $\cos 2\beta$  の値を求めよ。
- (2) (1) の  $\beta$  の値をすべて求めよ。
- (3)  $\triangle ABC$  の外接円の中心を  $O$  とする。 $\triangle ABC$  が鋭角三角形であるとき、 $\overrightarrow{OC} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$  を満たす実数  $s, t$  を求めよ。 [2016 北海道大・文]

**30** 1辺の長さが1の正六角形ABCDEFが与えられている。点Pが辺AB上を、点Qが辺CD上をそれぞれ独立に動くとき、線分PQを2:1に内分する点Rが通りうる範囲の面積を求めよ。 [2017 東京大・文]

**31** 座標空間において原点Oと点A(0, -1, 1)を通る直線を*l*とし、点B(0, 2, 1)と点C(-2, 2, -3)を通る直線を*m*とする。*l*上の2点P, Qと、*m*上の点Rを△PQRが正三角形となるようにとる。このとき、△PQRの面積が最小となるようなP, Q, Rの座標を求めよ。 [2017 京都大・文]

**32** 正方形ABCDの辺を除く内部に、 $PA \perp PB$ を満たす点Pがある。ベクトル $\overrightarrow{PC}$ を $x\overrightarrow{PA} + y\overrightarrow{PB}$ と表すとき、以下の問いに答えよ。

(1)  $\alpha = \frac{|\overrightarrow{PB}|}{|\overrightarrow{PA}|}$ とすると、 $x, y$ を $\alpha$ を用いて表せ。

(2) 点Pが題意の条件を満たしながら動くとき、(1)で求めた $x, y$ の和 $x+y$ の最大値を求め、そのときのPがどのような点かを答えよ。 [2018 千葉大・理]

**33** 四面体ABCDは $AC = BD$ ,  $AD = BC$ を満たすとし、辺ABの中点をP, 辺CDの中点をQとする。

(1) 辺ABと線分PQは垂直であることを示せ。

(2) 線分PQを含む平面 $\alpha$ で四面体ABCDを切って2つの部分に分ける。このとき、2つの部分の体積は等しいことを示せ。 [2018 京都大]

**34**  $|\overrightarrow{AB}| = 2$ を満たす△PABを考え、辺ABの中点をM, △PABの重心をGとする。以下の問いに答えよ。

(1)  $|\overrightarrow{PM}|^2$ を内積 $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}$ を用いて表せ。

(2)  $\angle AGB = \frac{\pi}{2}$ のとき、 $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB}$ の値を求めよ。

(3) 点Aと点Bを固定し、 $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} = \frac{5}{4}$ を満たすように点Pを動かすとき、 $\angle ABG$ の最大値を求めよ。ただし、 $0 < \angle ABG < \pi$ とする。 [2019 神戸大]

35 空間内に  $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$  の直角二等辺三角形  $ABC$  と平面  $P$  がある。点  $A$  は  $P$  上にあり、点  $B$  と点  $C$  は  $P$  上にはなく、 $P$  に関して同じ側に位置している。点  $B, C$  から  $P$  に下ろした垂線と  $P$  との交点をそれぞれ  $B', C'$  とする。

(1)  $\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + \overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} = 0$  を示せ。

(2)  $\angle B'AC' > \frac{\pi}{2}$  を示せ。

(3)  $P$  上の三角形  $AB'C'$  の辺の長さは短いものから  $4, \sqrt{21}, 7$  であった。このとき、辺  $AB$  の長さを求めよ。 [2019 名古屋大・理]

36 座標空間内の 2 つの球面

$S_1 : (x-1)^2 + (y-1)^2 + (z-1)^2 = 7$  と  $S_2 : (x-2)^2 + (y-3)^2 + (z-3)^2 = 1$  を考える。 $S_1$  と  $S_2$  の共通部分を  $C$  とする。このとき以下の問いに答えよ。

(1)  $S_1$  との共通部分が  $C$  となるような球面のうち、半径が最小となる球面の方程式を求めよ。

(2)  $S_1$  との共通部分が  $C$  となるような球面のうち、半径が  $\sqrt{3}$  となる球面の方程式を求めよ。 [2019 大阪大]

---

# ベクトル

## 【解答例と解説】

---

(注) 問題番号が、対応する問題ページへのハイパーリンクになっています。

1

[1998 一橋大]

(1)  $\overrightarrow{AB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$  とする。

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AB_2} &= (1-t)\overrightarrow{AC_1} + t\overrightarrow{AA_1} \\ &= (1-t)t\vec{b} + t\{(1-t)\vec{b} + t\vec{c}\} \\ &= 2t(1-t)\vec{b} + t^2\vec{c}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AC_2} &= (1-t)\overrightarrow{AA_1} + t\overrightarrow{AB_1} \\ &= (1-t)\{(1-t)\vec{b} + t\vec{c}\} + t(1-t)\vec{c} \\ &= (1-t)^2\vec{b} + 2t(1-t)\vec{c}\end{aligned}$$

$$\overrightarrow{B_2C_2} = \overrightarrow{AC_2} - \overrightarrow{AB_2} = (3t^2 - 4t + 1)\vec{b} - (3t^2 - 2t)\vec{c}$$

(i)  $B_2C_2 \parallel AC$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2}$  は  $\vec{c}$  の実数倍より  $3t^2 - 4t + 1 = 0$ , よって  $t = \frac{1}{3}$ (ii)  $B_2C_2 \parallel AB$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2}$  は  $\vec{b}$  の実数倍より  $3t^2 - 2t = 0$ , よって  $t = \frac{2}{3}$ (iii)  $B_2C_2 \parallel BC$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2}$  は  $\vec{b} - \vec{c}$  の実数倍より  $3t^2 - 4t + 1 = 3t^2 - 2t$ ,  
よって  $t = \frac{1}{2}$ 

(2) (1)と同様にして,

$$\overrightarrow{AA_2} = t\overrightarrow{AC_1} + (1-t)\overrightarrow{AB_1} = t^2\vec{b} + (1-t)^2\vec{c}$$

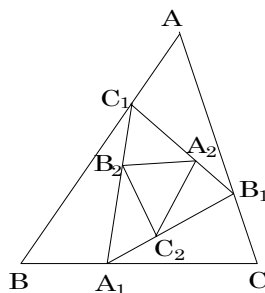
$$\overrightarrow{C_2A_2} = \overrightarrow{AA_2} - \overrightarrow{AC_2} = (2t-1)\vec{b} - (3t^2-4t+1)\vec{c}$$

$$\overrightarrow{A_2B_2} = \overrightarrow{AB_2} - \overrightarrow{AA_2} = (2t-3t^2)\vec{b} + (2t-1)\vec{c}$$

(i)  $t = \frac{1}{3}$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2} = \frac{1}{3}\vec{c} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AC}$ ,  $\overrightarrow{C_2A_2} = -\frac{1}{3}\vec{b} = \frac{1}{3}\overrightarrow{BA}$ , $\overrightarrow{A_2B_2} = \frac{1}{3}\vec{b} - \frac{1}{3}\vec{c} = \frac{1}{3}\overrightarrow{CB}$  より,  $\triangle A_2B_2C_2 \sim \triangle BCA$  で, 相似比は  $1:3$ (ii)  $t = \frac{2}{3}$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2} = -\frac{1}{3}\vec{b} = \frac{1}{3}\overrightarrow{BA}$ ,  $\overrightarrow{C_2A_2} = \frac{1}{3}\vec{b} - \frac{1}{3}\vec{c} = \frac{1}{3}\overrightarrow{CB}$ , $\overrightarrow{A_2B_2} = \frac{1}{3}\vec{c} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AC}$  より,  $\triangle A_2B_2C_2 \sim \triangle CAB$  で, 相似比は  $1:3$ (iii)  $t = \frac{1}{2}$  のとき,  $\overrightarrow{B_2C_2} = -\frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{c} = \frac{1}{4}\overrightarrow{BC}$ ,  $\overrightarrow{C_2A_2} = -\frac{1}{4}\vec{c} = \frac{1}{4}\overrightarrow{CA}$ , $\overrightarrow{A_2B_2} = \frac{1}{4}\vec{b} = \frac{1}{4}\overrightarrow{AB}$  より,  $\triangle A_2B_2C_2 \sim \triangle ABC$  で, 相似比は  $1:4$ 

## [解説]

よくある構図の頻出問題です。上のように 1 次独立なベクトルを設定するか、または頂点の位置ベクトルを設定して解いていけば、完答できる問題です。



2

[1998 千葉大・文]

- (1) 条件より,
- $(\vec{p} - s\vec{a} - t\vec{b}) \cdot \vec{a} = 0$
- から

$$\vec{p} \cdot \vec{a} - s|\vec{a}|^2 - t\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$2 - 2s + t = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

- また,
- $(\vec{p} - s\vec{a} - t\vec{b}) \cdot \vec{b} = 0$
- から

$$\vec{p} \cdot \vec{b} - s\vec{a} \cdot \vec{b} - t|\vec{b}|^2 = 0$$

$$-2 + s - 2t = 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\text{より, } s = \frac{2}{3}, t = -\frac{2}{3}$$

- (2) (1)から,  $\vec{OH} = s\vec{a} + t\vec{b} = \frac{2}{3}\vec{a} - \frac{2}{3}\vec{b}$  とおくと, 点 H は平面  $\alpha$  上の点であり, しかも,  $\vec{p} - s\vec{a} - t\vec{b} = \vec{OP} - \vec{OH} = \vec{HP}$  が  $\alpha$  に垂直なので, 点 H は点 P から  $\alpha$  に下ろした垂線の足となる。

$$\text{すると, 2点 P, Q の中点が H より, } \vec{OH} = \frac{\vec{OP} + \vec{OQ}}{2}$$

$$\vec{OQ} = 2\vec{OH} - \vec{OP} = \frac{4}{3}\vec{a} - \frac{4}{3}\vec{b} - \vec{p}$$

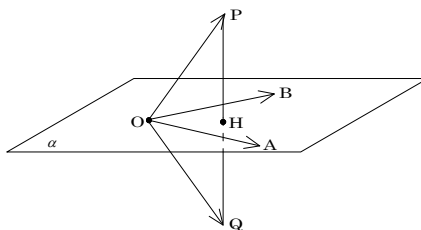
- (3)  $|\vec{OH}|^2 = \left| \frac{2}{3}\vec{a} - \frac{2}{3}\vec{b} \right|^2 = \frac{4}{9} (|\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2) = \frac{4}{9} (2 + 2 + 2) = \frac{8}{9}$

$$\text{ここで, } \triangle OPH = \frac{1}{2} \triangle OPQ = \frac{1}{2} \cdot \frac{2\sqrt{2}}{3} = \frac{\sqrt{2}}{3}$$

$$\text{また, } \triangle OPH = \frac{1}{2} \cdot OH \cdot PH = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{\frac{8}{9}} \cdot PH = \sqrt{\frac{2}{9}} \cdot PH$$

$$\text{よって, } \sqrt{\frac{2}{9}} \cdot PH = \frac{\sqrt{2}}{3} \text{ から, } PH = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

$$\text{三平方の定理から, } |\vec{p}| = OP = \sqrt{OH^2 + PH^2} = \sqrt{\frac{8}{9} + \frac{1}{9}} = \sqrt{3}$$



### [解説]

P から  $\alpha$  に下ろした垂線の足を表す位置ベクトルを求めることが(1)の意味です。これに気づくことが, (2)の解法のポイントです。また, (3)ではベクトルだけの計算で OP を求めてもよいのですが, 上の解では直角に注目して図形的に考えてみました。

3

[1999 東北大・理]

$$\text{条件より, } S_1 : (x-10)^2 + y^2 + z^2 = 81 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$S_2 : x^2 + (y-10)^2 + z^2 = 64 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$S_1 \text{ と } S_2 \text{ に接し原点を通る直線は, } (x, y, z) = t(a, b, c) \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$\text{ただし, } a^2 + b^2 + c^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$$\text{まず}\textcircled{3}\text{を}\textcircled{1}\text{に代入して, } (at-10)^2 + (bt)^2 + (ct)^2 = 81$$

$$(a^2 + b^2 + c^2)t^2 - 20at + 19 = 0$$

$$\textcircled{4}\text{から, } t^2 - 20at + 19 = 0$$

$$\textcircled{1}\text{と}\textcircled{3}\text{が接するので, } D/4 = 100a^2 - 19 = 0, a = \pm \frac{\sqrt{19}}{10} \cdots \cdots \textcircled{5}$$

$$\text{次に}\textcircled{3}\text{を}\textcircled{2}\text{に代入して, } (at)^2 + (bt-10)^2 + (ct)^2 = 64$$

$$(a^2 + b^2 + c^2)t^2 - 20bt + 36 = 0$$

$$\textcircled{4}\text{から, } t^2 - 20bt + 36 = 0$$

$$\textcircled{2}\text{と}\textcircled{3}\text{が接するので, } D/4 = 100b^2 - 36 = 0, b = \pm \frac{3}{5} \cdots \cdots \textcircled{6}$$

$$\textcircled{4}\textcircled{5}\textcircled{6}\text{より, } \frac{19}{100} + \frac{9}{25} + c^2 = 1$$

$$c \geq 0 \text{ なので, } c = \frac{3\sqrt{5}}{10}$$

$$\text{以上より, } (a, b, c) = \left( \pm \frac{\sqrt{19}}{10}, \pm \frac{3}{5}, \frac{3\sqrt{5}}{10} \right) \text{ (複号任意)}$$

### [解説]

図形的な位置関係を考えてもよいのですが、ここでは代数的に解いてみました。こうすると、数式のもつ威力が感じられます。

4

[2000 大阪大・文]

$$\vec{OA} + \vec{OB} = -\vec{OC} \text{ より, } |\vec{OA} + \vec{OB}| = |\vec{OC}|$$

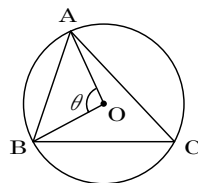
$$|\vec{OA}|^2 + 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + |\vec{OB}|^2 = |\vec{OC}|^2$$

ここで,  $|\vec{OA}| = |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = R$ ,  $\angle AOB = \theta$  とおくと,

$$R^2 + 2R^2 \cos \theta + R^2 = R^2$$

$$2 \cos \theta + 1 = 0, \cos \theta = -\frac{1}{2}, \theta = 120^\circ$$

さて,  $\vec{OA} + \vec{OB} = -\vec{OC}$  から,  $2 \cdot \frac{\vec{OA} + \vec{OB}}{2} = -\vec{OC}$  と変形をすると, 辺 AB の中点と



頂点 C は O に関して反対側にあることになり,

$$\angle ACB = \frac{1}{2} \angle AOB = 60^\circ$$

また,  $\vec{OA} + \vec{OC} = -\vec{OB}$  より, 同様にして,  $\angle ABC = \frac{1}{2} \angle AOC = 60^\circ$

よって,  $\angle BAC = 180^\circ - 60^\circ - 60^\circ = 60^\circ$

以上より,  $\triangle ABC$  は正三角形である。

### [解説]

ずいぶん前になりますが, 1992年に京大で, 類題が出ています。



5

[2000 京都大]

対角線  $AP$  と  $BC$  の交点を  $D$  とすると、条件(ロ)より、  
 $BD : DC = p : (1-p)$  なので、

$$\overrightarrow{AD} = (1-p)\overrightarrow{AB} + p\overrightarrow{AC}$$

ここで、正三角形  $ABC$  の 1 辺の長さを 1 としても、一般性は失われないので、

$$|\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{AC}| = |\overrightarrow{BC}| = 1$$

$$\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 1 \cdot 1 \cdot \cos 60^\circ = \frac{1}{2}$$

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{AD}|^2 &= (1-p)^2 |\overrightarrow{AB}|^2 + 2(1-p)p \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} + p^2 |\overrightarrow{AC}|^2 \\ &= (1-p)^2 + (1-p)p + p^2 = 1-p+p^2 \end{aligned}$$

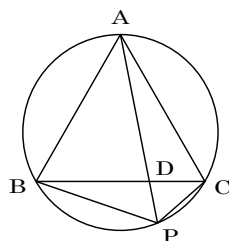
$$\text{よって、} |\overrightarrow{AD}| = \sqrt{1-p+p^2}$$

ここで、方べきの定理より、 $AD \cdot DP = BD \cdot DC$

$$DP = \frac{BD \cdot DC}{AD} = \frac{p(1-p)}{\sqrt{1-p+p^2}}$$

$$\begin{aligned} \text{すると、} AD : AP &= \sqrt{1-p+p^2} : \left( \sqrt{1-p+p^2} + \frac{p(1-p)}{\sqrt{1-p+p^2}} \right) \\ &= (1-p+p^2) : (1-p+p^2+p-p^2) \\ &= (1-p+p^2) : 1 \end{aligned}$$

$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{1-p+p^2} \overrightarrow{AD} = \frac{1-p}{1-p+p^2} \overrightarrow{AB} + \frac{p}{1-p+p^2} \overrightarrow{AC}$$



### [解説]

方べきの定理が活躍する構図の設問です。

6

[2000 神戸大・文]

(1)  $\overrightarrow{CP} = s\vec{a} + t(\vec{a} + \vec{b}) \cdots \cdots$ (a)に対し,  $\overrightarrow{CD} = \vec{a} + \vec{b}$ とおくと,

$$\overrightarrow{CP} = s\overrightarrow{CA} + t\overrightarrow{CD} \quad (0 \leq s+t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0)$$

よって, 点 P は  $\triangle ADC$  の内部または周上に存在する。

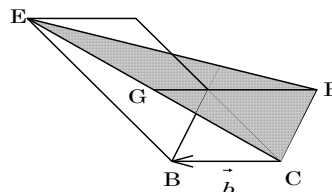
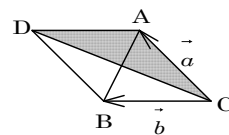
次に,  $\overrightarrow{CP} = (2s+t)\vec{a} + (s-t)\vec{b} \cdots \cdots$ (b)に対して,

$$\overrightarrow{CP} = s(2\vec{a} + \vec{b}) + t(\vec{a} - \vec{b})$$

$$\overrightarrow{CE} = 2\vec{a} + \vec{b}, \quad \overrightarrow{CF} = \vec{a} - \vec{b} \text{とおくと,}$$

$$\overrightarrow{CP} = s\overrightarrow{CE} + t\overrightarrow{CF} \quad (0 \leq s+t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0)$$

よって, 点 P は  $\triangle CEF$  の内部または周上に存在する。



(2) (a)の場合は,  $\triangle ADC = \triangle ABC$  より, 点 P の存在する範囲の面積は  $\triangle ABC$  の 1 倍となる。

(b)の場合は,  $GF = \frac{3}{2}AF = \frac{3}{2}BC$ ,  $EB = 2AC$  より,

$$\triangle EFC = \left(\frac{3}{2} \times 2\right) \triangle ACF = 3\triangle ABC$$

よって, 点 P の存在する範囲の面積は  $\triangle ABC$  の 3 倍となる。

### [解 説]

一般的に難しめの問題が多いベクトルと領域の融合題ですが, 本問は基本の確認が主となっています。

[2001 東北大・文]

7

(1) 線分 LP の中点を S とすると,

$$\vec{OS} = \frac{1}{2}(\vec{OL} + \vec{OP}) = \frac{1}{4}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$$

これから,  $\vec{OS} = \frac{1}{2}(\vec{OM} + \vec{OQ})$  と表せ, 点 S は  
線分 MQ の中点に一致する。

また,  $\vec{OS} = \frac{1}{2}(\vec{ON} + \vec{OR})$  と表せるので, S は  
線分 NR の中点にも一致する。

よって, 線分 LP, MQ, NR は 1 点で交わる。

(2) 条件より,  $\vec{p} = \vec{LP} = \vec{OP} - \vec{OL} = \frac{1}{2}(-\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdots \cdots \textcircled{1}$ 

$$\vec{q} = \vec{MQ} = \vec{OQ} - \vec{OM} = \frac{1}{2}(\vec{a} - \vec{b} + \vec{c}) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\vec{r} = \vec{NR} = \vec{OR} - \vec{ON} = \frac{1}{2}(\vec{a} + \vec{b} - \vec{c}) \cdots \cdots \textcircled{3}$$

②③より  $\vec{a} = \vec{q} + \vec{r}$ , ①③より  $\vec{b} = \vec{p} + \vec{r}$ , ①②より  $\vec{c} = \vec{p} + \vec{q}$

(3) 条件より,  $\vec{XA} = -\vec{AX} = -\vec{LP} = -\vec{p}$ 

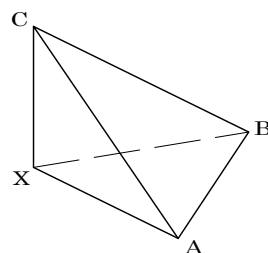
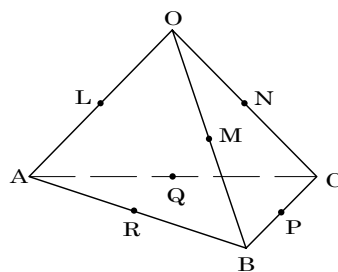
$$\vec{XB} = \vec{AB} - \vec{AX} = \vec{b} - \vec{a} - \vec{p} = \vec{p} + \vec{r} - \vec{q} - \vec{r} - \vec{p} = -\vec{q}$$

$$\vec{XC} = \vec{AC} - \vec{AX} = \vec{c} - \vec{a} - \vec{p} = \vec{p} + \vec{q} - \vec{q} - \vec{r} - \vec{p} = -\vec{r}$$

$\vec{p}$ ,  $\vec{q}$ ,  $\vec{r}$  が互いに直交することより, 四面体 XABC

の体積は,

$$\frac{1}{3} \left( \frac{1}{2} |\vec{p} \parallel \vec{q}| \right) |\vec{r}| = \frac{1}{6} |\vec{p} \parallel \vec{q} \parallel \vec{r}|$$



## [解説]

(3)で与えられた条件によって, 四面体 OABC の 4 つの面は合同になります。このとき, この四面体は直方体に埋め込まれるということが元になっています。ずいぶん前になりますが, 1993年に東大・理で, この考え方を利用する問題が出ています。

8

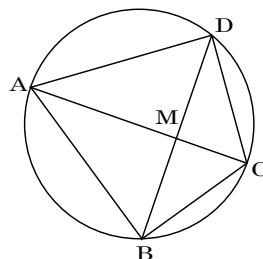
[2002 千葉大・理]

$$(1) \quad \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD} + 2(\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD}) = \vec{0} \text{ より,}$$

$$\frac{\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD}}{2} = -2 \cdot \frac{\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD}}{2}$$

BD の中点を M とすると,  $\overrightarrow{AM} = -2\overrightarrow{CM} \dots\dots\dots(*)$

よって, A, M, C は同一直線上にあるので, 直線 AC は線分 BD の中点を通る。



$$(2) \quad (1) \text{ より, } BM = DM$$

また, 条件より  $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BD} = 0$  なので,  $AC \perp BD$

これより, AC は BD の垂直二等分線となり,  $\triangle ABC \equiv \triangle ADC$  となるので,

$$\angle ABC = \angle ADC$$

また, 四角形 ABCD は円に内接するので,  $\angle ABC + \angle ADC = 180^\circ$  より,

$$\angle ABC = \angle ADC = 90^\circ$$

すなわち, AC は半径 1 である四角形 ABCD の外接円の直径となり,  $AC = 2$  である。

$$\text{ここで, } (*) \text{ より, } AM : MC = 2 : 1 \text{ なので, } AM = 2 \times \frac{2}{3} = \frac{4}{3}$$

$$\text{外接円の中心を } O \text{ とすると, } OM = AM - AO = \frac{4}{3} - 1 = \frac{1}{3}$$

$$BM = \sqrt{OB^2 - OM^2} = \sqrt{1 - \frac{1}{9}} = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

$$\text{よって, } AB = AD = \sqrt{AM^2 + BM^2} = \sqrt{\frac{16}{9} + \frac{8}{9}} = \frac{2\sqrt{6}}{3}$$

$$BC = DC = \sqrt{AC^2 - AB^2} = \sqrt{4 - \frac{24}{9}} = \frac{2\sqrt{3}}{3}$$

### [解説]

(1)の誘導によって, AC が外接円の直径であることを見つけるのが最大のポイントです。

9

[2002 九州大・文]

$$(1) \triangle ABC = \frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}| \sin A = \frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| |\overrightarrow{AC}| \sqrt{1 - \cos^2 A}$$

$$= \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2 |\overrightarrow{AC}|^2 (1 - \cos^2 A)} = \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2 |\overrightarrow{AC}|^2 - (\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC})^2}$$

$$(2) \text{条件より, } |\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{AD}| = 1, |\overrightarrow{AE}| = 2a, \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} = \overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{AE} = 0$$

$$\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AE} = 1 \cdot 2a \cos 120^\circ = -a$$

$$\text{ここで, } \overrightarrow{AC} = \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD}, \overrightarrow{AP} = x\overrightarrow{AB} + y\overrightarrow{AD} + \overrightarrow{AE}$$

$$|\overrightarrow{AC}|^2 = |\overrightarrow{AB}|^2 + 2\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} + |\overrightarrow{AD}|^2 = 2$$

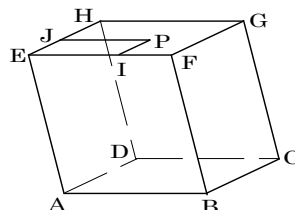
$$|\overrightarrow{AP}|^2 = x^2 |\overrightarrow{AB}|^2 + y^2 |\overrightarrow{AD}|^2 + |\overrightarrow{AE}|^2$$

$$+ 2xy\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} + 2y\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{AE} + 2x\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AE}$$

$$= x^2 + y^2 + 4a^2 - 2ax$$

$$\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{AP} = x |\overrightarrow{AB}|^2 + y\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AE} + x\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} + y |\overrightarrow{AD}|^2 + \overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{AE}$$

$$= x - a + y$$



そこで,  $\triangle ACP$  の面積を  $S$  とすると, (1)より,

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{2(x^2 + y^2 + 4a^2 - 2ax) - (x - a + y)^2}$$

$$= \frac{1}{2} \sqrt{x^2 - 2xy + y^2 - 2ax + 2ay + 7a^2}$$

$$(3) P = x^2 - 2xy + y^2 - 2ax + 2ay + 7a^2 \text{ とおくと, } S = \frac{1}{2} \sqrt{P} \text{ となる。}$$

さて,  $x - y = t$  とおくと,  $0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1$  より  $-1 \leq t \leq 1$  であり,

$$P = (x - y)^2 - 2a(x - y) + 7a^2 = (x - y - a)^2 + 6a^2 = (t - a)^2 + 6a^2$$

(i)  $0 < a \leq 1$  のとき

$P$  は  $t = a$  で最小値  $6a^2$  をとり, このとき  $S$  も最小となり,

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{6a^2} = \frac{\sqrt{6}}{2} a$$

(ii)  $a > 1$  のとき

$P$  は  $t = 1$  で最小値  $1 - 2a + 7a^2$  をとり, このとき  $S$  も最小となり,

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{1 - 2a + 7a^2}$$

### [解説]

空間ベクトルについての標準的な問題です。(3)は1文字を固定して, 2次関数として最小値を求める問題かとも思いましたが, 式の特徴を利用すると, その必要はありませんでした。

10

[2003 京都大]

$\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OB} = \vec{b}$ ,  $\vec{OC} = \vec{c}$  とおくと、条件(i)より、

$$\vec{a} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = 0, \quad \vec{a} \cdot \vec{c} = \vec{a} \cdot \vec{b}$$

$$\vec{b} \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0, \quad \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{b} \cdot \vec{a}$$

$$\vec{c} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0, \quad \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$$

まとめて、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = k \cdots \cdots \textcircled{1}$  とおく。

また、条件(ii)より、 $\triangle OAB = \triangle OBC = \triangle OCA$  から、

$$\frac{1}{2} \sqrt{|\vec{a}|^2 |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{b}|^2 |\vec{c}|^2 - (\vec{b} \cdot \vec{c})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{c}|^2 |\vec{a}|^2 - (\vec{c} \cdot \vec{a})^2}$$

$\textcircled{1}$ より、 $|\vec{a}| |\vec{b}| = |\vec{b}| |\vec{c}| = |\vec{c}| |\vec{a}|$

まとめて、 $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = l \cdots \cdots \textcircled{2}$  とおく。

ここで、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より、 $|\vec{AB}|^2 = |\vec{b} - \vec{a}|^2 = l^2 - 2k + l^2 = 2(l^2 - k)$

$$|\vec{AC}|^2 = |\vec{c} - \vec{a}|^2 = l^2 - 2k + l^2 = 2(l^2 - k)$$

$$\vec{AB} \cdot \vec{AC} = (\vec{b} - \vec{a})(\vec{c} - \vec{a}) = k - k - k + l^2 = l^2 - k$$

すると、 $\triangle ABC = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2}$  より、

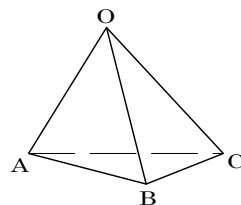
$$\triangle ABC = \frac{1}{2} \sqrt{4(l^2 - k)^2 - (l^2 - k)^2} = \frac{1}{2} \sqrt{3(l^2 - k)^2}$$

さらに、 $\triangle ABC = \triangle OAB$  より、 $\frac{1}{2} \sqrt{3(l^2 - k)^2} = \frac{1}{2} \sqrt{l^4 - k^2}$

$$3(l^2 - k)^2 = (l^2 - k)(l^2 + k), \quad 3(l^2 - k) = l^2 + k, \quad l^2 = 2k \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{3}$ より、 $\cos \angle AOB = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{k}{l^2} = \frac{1}{2}$  から、 $\angle AOB = 60^\circ$  となる。

同様にして、 $\angle BOC = \angle COA = 60^\circ$  なので、 $\triangle OAB$ ,  $\triangle OBC$ ,  $\triangle OCA$  は正三角形となり、四面体  $OABC$  は正四面体である。



### [解 説]

頂角が  $60^\circ$  の二等辺三角形は正三角形という方針で解をつくりました。

11

[2004 九州大・理]

- (1) 求める単位ベクトルを
- $\vec{e} = (x, y, z)$
- とおく。

$$\vec{OA} \cdot \vec{e} = 0 \text{ より, } ax + by = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$\vec{OC} \cdot \vec{e} = 0 \text{ より, } x + y + z = 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} \text{ より, } (x, y) = k(b, -a) \text{ (} k \text{ は実数)}$$

②から,  $z = -x - y$  なので,

$$(x, y, z) = k(b, -a, a-b)$$

$$|\vec{e}| = 1 \text{ より, } 1 = |k| \sqrt{b^2 + (-a)^2 + (a-b)^2} \text{ から,}$$

$$k = \pm \frac{1}{\sqrt{b^2 + (-a)^2 + (a-b)^2}} = \pm \frac{1}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

$$\text{よって, } \vec{e} = \pm \frac{1}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}} (b, -a, a-b)$$

$$\text{すると, } \vec{OB} \cdot \vec{e} = \pm \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}} \text{ より, } |\vec{OB} \cdot \vec{e}| = \frac{|bc + ad - bd|}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

ここで,  $a \geq b \geq 0, c \geq 0, d \geq 0$  なので,  $bc + ad - bd = bc + d(a-b) \geq 0$  となり,

$$|\vec{OB} \cdot \vec{e}| = \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

- (2) 四面体 OABC において,
- $\triangle OAC$
- を底面とすると, 高さは
- $|\vec{OB} \cdot \vec{e}|$
- となる。

$$\begin{aligned} \triangle OAC &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OC}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OC})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{3(a^2 + b^2) - (a+b)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)} \end{aligned}$$

四面体 OABC の体積を  $V$  とすると, (1) より,

$$V = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)} \cdot \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}} = \frac{1}{6} (bc + ad - bd)$$

- (3) まず, 点 A(
- $a, b, 0$
- ) の位置を
- $S$
- 内でいったん固定した後, 点 B(
- $c, 0, d$
- ) を
- $T$
- 内で動かし,
- $V$
- が最大になるときの点 B の位置を求める。次に, この状態を保ったまま, 点 A を
- $S$
- 内で動かし,
- $V$
- の最大値を求める。

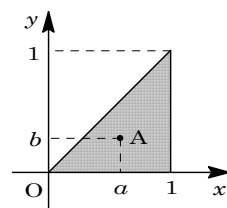
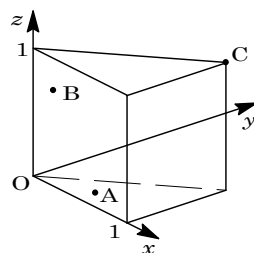
なお,  $a = b = 0$  のときは, 点 A が原点 O と一致するので不適である。

- (i) 点 A(
- $a, b, 0$
- ) を
- $a > b > 0$
- の位置に固定したとき

$$V = \frac{1}{6} \{(a-b)d + bc\} \text{ となるので, } V \text{ は } d \text{ の単調増加関数であり, } 0 \leq d \leq 1,$$

$0 \leq c \leq 1$  より,  $c = d = 1$  のとき  $V$  は最大になる。

$$\text{このとき, } V = \frac{1}{6} (a - b + b) = \frac{1}{6} a \text{ である。}$$



そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $a=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=c=d=1$ 、 $0 < b < 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(ii) 点 A  $(a, b, 0)$  を  $a > b = 0$  の位置に固定したとき

$V = \frac{1}{6}ad$  となるので、 $V$  は  $d$  の単調増加関数であり、 $0 \leq d \leq 1$  より、 $d=1$  のとき  $V$  は最大になる。このとき  $V = \frac{1}{6}a$  である。

そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $a=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=d=1$ 、 $b=0$ 、 $0 \leq c \leq 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(iii) 点 A  $(a, b, 0)$  を  $a=b > 0$  の位置に固定したとき

$V = \frac{1}{6}bc$  となるので、 $V$  は  $c$  の単調増加関数であり、 $0 \leq c \leq 1$  より、 $c=1$  のとき  $V$  は最大になる。このとき  $V = \frac{1}{6}b$  である。

そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $b=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=b=c=1$ 、 $0 \leq d \leq 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(i)(ii)(iii)より、 $V$  の最大値は  $\frac{1}{6}$ 、このときの点 A, B の位置は次の 3 種類である。

$$A(1, b, 0), B(1, 0, 1) \quad (0 < b < 1)$$

$$A(1, 0, 0), B(c, 0, 1) \quad (0 \leq c \leq 1)$$

$$A(1, 1, 0), B(1, 0, d) \quad (0 \leq d \leq 1)$$

### [解説]

(2)までは 1999 年に類題が出ています。ただ、(3)の最大値を求めるときに、いわゆる「予選→決勝戦」という 1 文字固定の解法を用いる必要があります。上の解では条件のきつい点 A をとりあえず固定し、点 B を動かすという方法で解きました。